

# 「Q1」整備の安全祈願

## 山形市 創造都市の拠点へ改修



センター改修後のイメージ。建物西側にエレベーターが設置される(山形市提供)

山形市が創造都市の拠点として、山形まなび館(山形一小旧校舎)を改修して整備する「(仮称)Q1」や

また「クリエイティブシティセンター」の工事安全祈願祭が15日、同市本町1丁目の現地で行われた。来年9月予定のオープンに向け、動画編集室などを設けるほか、カフェなどのテナントを誘致し、地域産業と中心市街地の活性化を目指す。

国連教育科学文化機関(ユネスコ)創造都市ネットワークの映画分野に加盟する山形市が東北芸術工科大との連携で、文化芸術活動の発信拠点として整備する。現在は未使用の2〜4階を活用できるようにし、建物西側には定員24人のエレベーターを設置する。

改修後は市の食文化を体感できる飲食店、物販店、試写室、シェアオフィス、

オープンアトリエなどの整備を計画。工期は来年3月までで、外構工事などを経てオープンする。改修工事費は約10億2400万円。

安全祈願祭には、市や同大、施工業者などから約40人が出席し、神事を執り行った。佐藤孝弘市長は「センターが中心市街地のにぎわい創出に寄与することに期待を示し、「文化芸術活動と地元企業を結び付けて新たな価値を生み出し、新たな産業、商品、サービスにつながる場所にしていきたい」と語った。

(伊豆田拓)